

JANS 国際活動推進委員会主催

第2弾 国際メンターシップ・プログラムって実際どうなの？ メンティの成長とメンターの気づき

内容

国際活動推進委員会では、2024 年度から「国際メンターシップ・プログラム」を開始しました。本プログラムでは、国際的に活躍する国外の医療・看護系研究者をメンターに迎え、国内の若手看護研究者がメンティとして参加します。これにより、多彩な知識、アイデア、ベストプラクティスを交換しあえる機会を促進し、国際的な研究者となる基盤づくりを支援しています。

現在、本プログラムには4名のメンティが参加されています。本プログラム開始後約1年が経過し、国際的に活躍をされているメンターに支援を受け、自身の研究プログラムを進めておられます。本セッションでは、本プログラムの参加者である2名のメンティとそのメンターからメンターシップの実際と研究の進捗、今後の展望についてお話をお聞きする機会となりました。

登壇者

1. 山口 未久先生：京都府立大学
2. Elizabeth Monsoon 先生・DeeJo Miller 先生：山口未久先生のメンター（メッセージ代読）
3. 松尾 尚美先生：植草学園大学
4. Wentao Zhou 先生：松尾尚美先生のメンター（オンライン）

当日は、2 日目の 10 時 50 分からの開始でした。12 名の皆様にご参加頂きました。昨年度は本プログラム開始の初年度であったため、本プログラムの内容について知りたい方々が多く参加されていましたが、本年度は次のプログラム参加の候補者として自身がエントリーできるかどうかという強い動機づけがある方々が多かったです。アンケートでは、家族のことを考えると留学は諦めていたが、今の生活を維持しつつ海外の研究者との交流をもてるプログラムに魅力を感じ、将来メンティとして応募をしたいという意見が寄せられました。また、英語の質疑応答で苦労した経験をもった参加者の方もおられ、英語力よりも応募する勇気が大切であるというコメントをくださいました。参加者の皆様にとって、経験者から学ぶ機会となった交流集会でした。ご参加くださった皆様に心より感謝申し上げます。

登壇者の皆様と

